

# 令和4年度 3学期

## 東大阪市標準学力調査 考察資料

小学校

### 調査目的

● 東大阪市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

### 調査内容

● 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

### 調査対象

- 東大阪市内の小学校の3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

### ◆ 用語について

#### 正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

#### 標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

#### 目標値（目標標準拠評価法式のみ）

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した自動・生徒の割合。

#### 主体的に学習に取り組む態度

数段階の思考を経て解く問題や、作業・記述量が多い問題について設定しており、「あくまでも今回の学力調査に限る」ものとし、限定的なもの。

# 3年 国語

## 「主体的に学習に取り組む態度」(数段階の思考を経て解く問題、作業・記述量が多い問題)に課題が残る

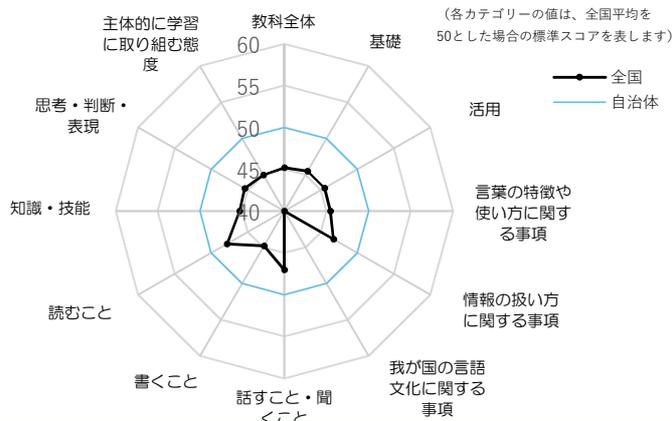
### 正答率一覧

単位 (%)		★=目標値	目標値	自治体	(%)
教科全体			72.2	64.9	★
基礎			77.6	71.0	★
活用			60.6	52.0	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項		78.0	69.0	★
	情報の扱い方に関する事項		51.7	36.9	★
	我が国の言語文化に関する事項				
	話すこと・聞くこと		81.7	84.2	★
観点別	書くこと		58.3	41.6	★
	読むこと		70.0	67.1	★
	知識・技能		71.9	61.6	★
	思考・判断・表現		67.7	60.3	★
主体的に学習に取り組む態度			59.0	44.7	★

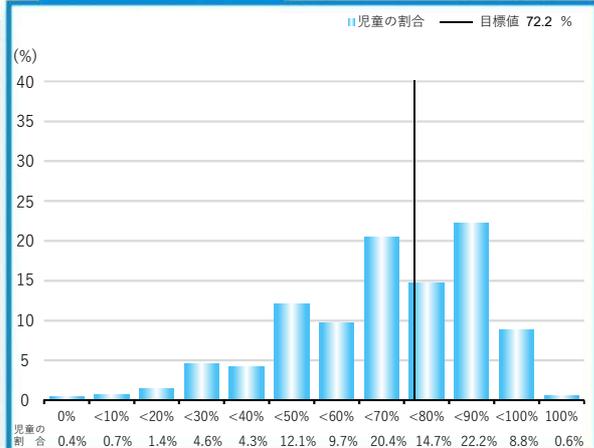
### 分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が64.9%
- で、目標値を7.3ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が44.7%で、目標
- 値を14.3ポイント下回った。

### カテゴリー間の比較



### 正答率度数分布



## ★課題となる小問★

話し合いをもとにしょうたいじょうを書く

大問6(2)

<ねらい> 情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える事例との関係を明確にして書いている。

目標値 30.0 % 正答率 4.7 % 差▲25.3 ポイント

**指導のポイント** 本問では、「小川さん」と「田中さん」の意見を基にして、空欄に当てはまるように書くことが条件となっている。「小川さん」の発言から「地いきのみなさんに聞いた話を生かした発表をする」と、「田中さん」の発言から「写真を使ってくふうして発表する」が必要な情報になる。これらの二つの情報を結び付けて、分かりやすい表現にしていく。複数の情報を取り入れて文章を書くことを苦手としている児童は多い。授業の中で、具体例を基に繰り返し学習していくように指導したい。

文章を書く

大問7

<ねらい> 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

目標値 60.0 % 正答率 37.5 % 差▲22.5 ポイント

**指導のポイント** 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。「段落に分ける」ことの意味が十分に理解できていないと、文章を組み立てることは難しい。まずは、「段落」という定義を正しく捉えさせることが大切である。その上で、教科書の教材文を意味段落に分けさせたり、ひと続きの文章を、話題の切り替わりによっていくつかの段落に分けさせたりする練習を積みせるとよい。

# 3年算数

## 「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

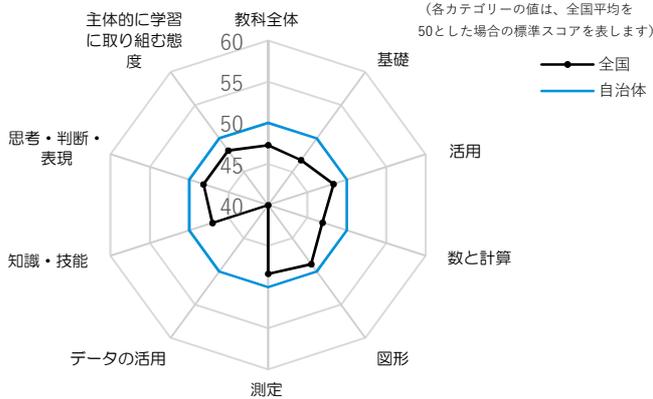
### 正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		68.9	65.2	★
基礎		75.3	70.0	★
活用		59.6	58.1	★
領域別	数と計算	67.4	62.3	★
	図形	73.3	72.3	★
	測定	71.3	70.0	★
	データの活用			
観点別	知識・技能	72.7	69.0	★
	思考・判断・表現	57.5	53.8	★
	主体的に学習に取り組む態度	60.6	58.4	★

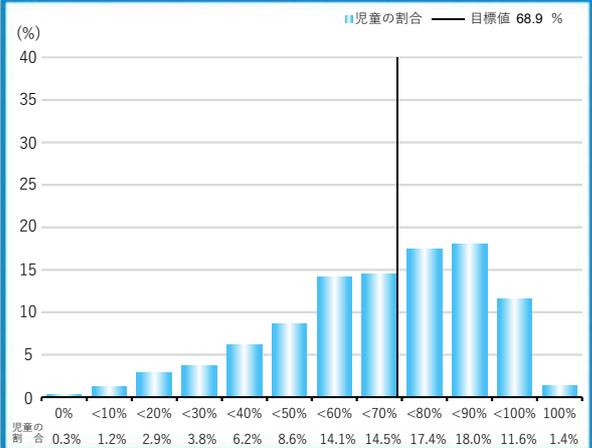
### 分析コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が65.2%
- で、目標値を3.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「思考・
- 判断・表現」が53.8%で、目標値を3.7ポ
- イント下回った。

### カテゴリ間の比較



### 正答率度数分布



## ★課題となる小問★

### かけ算

大問4

<ねらい> 乗法のきまり(分配法則)を理解している。

目標値 75.0 % 正答率 64.0 % 差 ▲11.0 ポイント

**指導のポイント** 乗法のきまりはいくつかあり、「かけられる数を分けて計算しても、答えは同じになる」というきまりもその1つである。かけ算のきまりは、教師が一方向的に指導するのではなく、九九表から児童が発見できるようにし、アレイ図などでそのきまりが成り立つかを確かめさせる活動が大切である。その際、例えば九の段は、一の位と十の位をたすと9になる、というようなその段固有のきまりと、乗法全てについて成り立つきまりとがあるので、教師が的確に区別して指導するとよい。

### たし算・ひき算

大問3(6)

<ねらい> 4けた-3けた=3けた(繰り下がり3回)の計算ができる。

目標値 75.0 % 正答率 64.7 % 差 ▲10.3 ポイント

**指導のポイント** 減法の計算問題では、計算するけた数が増えると、位がずれる、繰り下がりがあったことを忘れて計算してしまうなどの間違いが起きやすい。方眼のあるノートを用いて、繰り下がったときには被減数を斜め線で消し、上に繰り下がった後の数を書くなどの工夫をさせることで、一の位から順番に計算していけば、必ず正しい答えを導き出せることを実感させたい。

# 4年 国語

## 「主体的に学習に取り組む態度」(数段階の思考を経て解く問題、作業・記述量が多い問題)に課題が残る

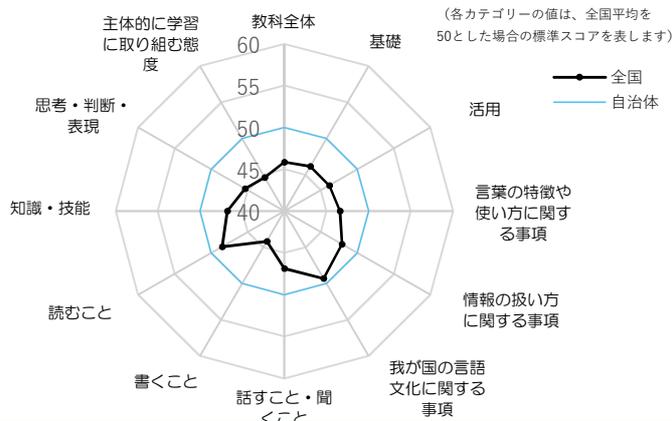
### 正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		69.0	64.2	★
基礎		74.7	71.9	★
活用		58.3	49.6	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.8	76.3	★
	情報の扱い方に関する事項	56.7	52.2	★
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	74.9	★
	話すこと・聞くこと	62.0	55.4	★
	書くこと	55.0	34.7	★
観点別	読むこと	65.8	63.3	★
	知識・技能	73.0	71.4	★
	思考・判断・表現	61.7	53.0	★
	主体的に学習に取り組む態度	57.0	41.5	★

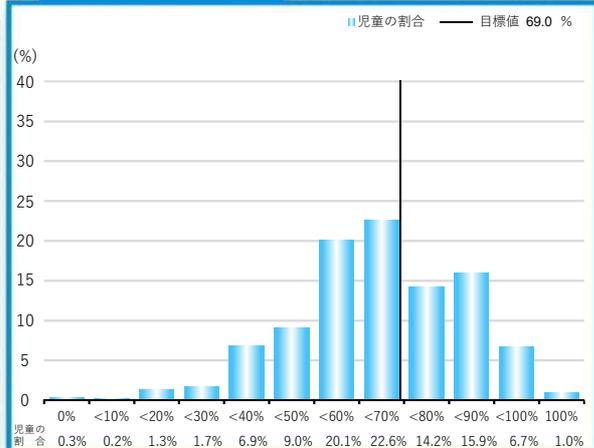
### 分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が64.2%
- で、目標値を4.8ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が41.5%で、目標
- 値を15.5ポイント下回った。

### カテゴリー間の比較



### 正答率度数分布



## ★課題となる小問★

### 文章を書く

大問7

<ねらい> 内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている。

目標値 60.0% 正答率 35.9% 差 ▲24.1ポイント

**指導のポイント** 本問は、取材メモを基に、第一段落に、取材相手が市の絵画コンクールで入選したことで、そのコンクールのテーマ、取材相手が描いた絵の内容を文章で書くことができるかを見る問題である。目的や必要に応じて、まとめた文章を書くことが重要である。日頃から授業の中で、学習している文章が何の目的で書かれているものなのかを意識したり、学習の見通しをもって授業に取り組んだりすることを、きちんと指導していくことが必要である。

### 話し合いの内ようを聞き取る

大問1(1)

<ねらい> 話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている。

目標値 65.0% 正答率 54.6% 差 ▲10.4ポイント

**指導のポイント** 聞き取りの問題では、話の内容を中心に聞くことになるが、授業でスピーチなどの聞き取りを行う際には、話し手がどのように話したのか、という話し方にも着目して聞くように指導することが大切である。そのような聞き取りの結果を、児童どうしの相互評価に生かすことにより、話を聞く態度を身に付けさせたい。さらに、スピーチをさせる際には、どのように話したら聞く側にとって分かりやすいのかを考えさせて、話し方を工夫させるとよい。

# 4年算数

「主体的に学習に取り組む態度」(数段階の思考を経て解く問題、作業・記述量が多い問題)に課題が残る

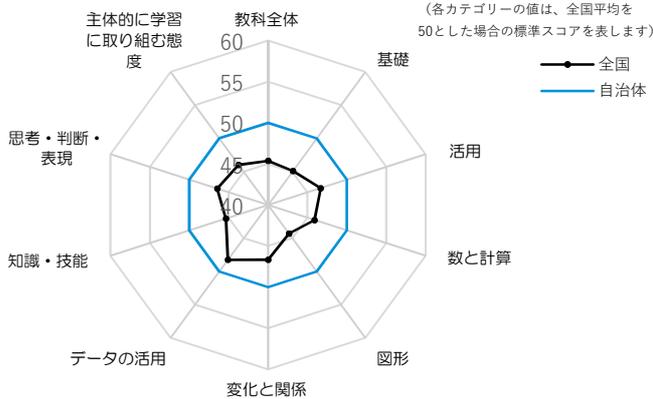
## 正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		66.3	58.5	★
基礎		71.1	63.8	★
活用		55.5	46.8	★
領域別	数と計算	67.3	60.2	★
	図形	62.5	51.1	★
	変化と関係	57.5	51.9	★
	データの活用	65.0	59.7	★
観点別	知識・技能	69.8	62.1	★
	思考・判断・表現	55.6	47.7	★
	主体的に学習に取り組む態度	47.0	31.6	★

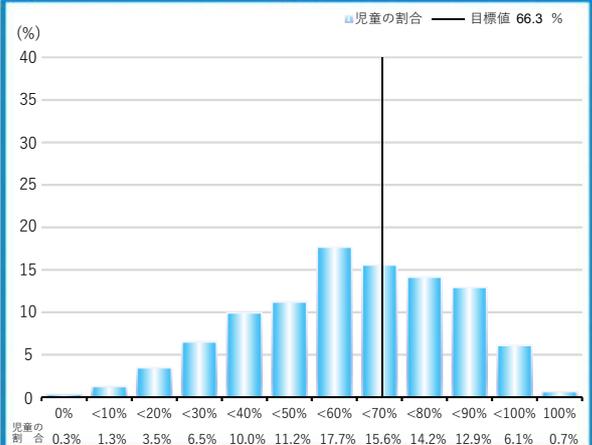
## 分析コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が58.5%
- で、目標値を7.8ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が31.6%で、目標
- 値を15.4ポイント下回った。

## カテゴリ間の比較



## 正答率度数分布



## ★課題となる小問★

### 垂直・平行と四角形

大問15(1)

<ねらい> 平行四辺形の作図ができる。

目標値 60.0 % 正答率 29.2 % 差 ▲30.8 ポイント

**指導のポイント** 平行四辺形は、1組の三角定規と分度器で作図する方法と、コンパスとものさしで作図する方法がある。前者は、平行四辺形が向かい合った2組の辺が平行であることを踏まえた作図方法で、後者は、平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいことを踏まえた作図方法である。このように、平行四辺形の意味や性質の何を利用するかで、作図の方法は多様にある。どの性質を利用して作図しようとしているのか、根拠をもって作図できるようにすることが大切である。

### 小数

大問18

<ねらい> 示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って、小数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明している。

目標値 30.0 % 正答率 9.1 % 差 ▲20.9 ポイント

**指導のポイント** 相対的な大きさは、ある位の単位に着目して、そのいくつ分と見る見方である。例えば、3.21は0.01が321個集まった数であるという見方である。相対的な大きさを使うと、小数の加減は整数と同じ原理でできる。なお、5.4は0.01が540個集まった数であるという誤答が考えられる。小数第3位までである位取り記数表などを活用して、5.4は0.01が540個集まった数であることを理解させることが大切である。

# 5年 国語

## 「主体的に学習に取り組む態度」(数段階の思考を経て解く問題、作業・記述量が多い問題)に課題が残る

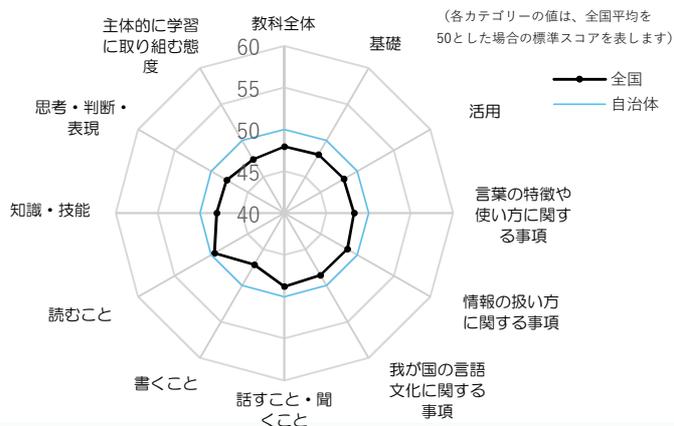
### 正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		69.8	69.1	★
基礎		73.9	73.4	★
活用		60.6	59.5	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.1	72.9	★
	情報の扱い方に関する事項	45.0	36.2	★
	我が国の言語文化に関する事項	60.0	60.6	★
	話すこと・聞くこと	71.7	66.2	★
観点別	書くこと	63.3	59.2	★
	読むこと	69.2	73.1	★
	知識・技能	68.9	66.8	★
	思考・判断・表現	67.3	66.1	★
主体的に学習に取り組む態度		67.0	64.6	★

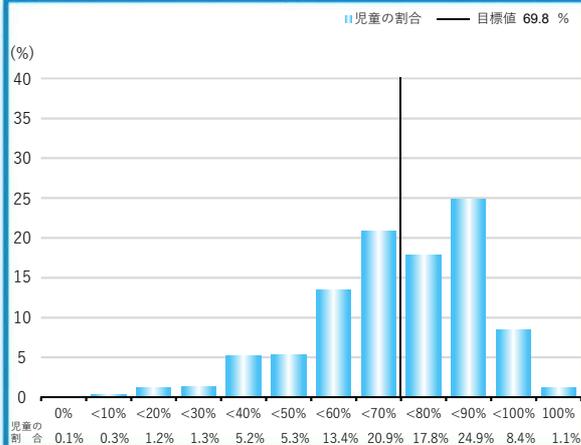
### 分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が69.1%
- で、目標値を0.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が64.6%で、目標
- 値を2.4ポイント下回った。

### カテゴリー間の比較



### 正答率度数分布



## ★課題となる小問★

### 言葉の学習

大問3(5)

<ねらい> 文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。

目標値 55.0 % 正答率 42.1 % 差▲12.9 ポイント

**指導のポイント** 文章の中で間違っている漢字を抜き出し、正しい漢字を書く問題であるが、傍線部の漢字の読み書きを問う通常の問題に比べると、正答率は下がる傾向にある。正しい言葉を習得することは、言語力向上に直結する重要な内容である。日頃から辞書指導を充実させ、知らない漢字に出合ったら辞書を引く、迷ったら辞書で確認するという能動的な学習習慣を身に付けさせることが大切である。

### 学校新聞を作る

大問6(2)

<ねらい> 情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。

目標値 40.0 % 正答率 27.9 % 差▲12.1 ポイント

**指導のポイント** 本問で、記事の空欄部分を書くための条件となっているのが〈注意する点〉であり、視力低下の原因とその対策について書くことが示されている。これは条件でもあるが、ヒントにもなっている。「条件は書き方のヒントである」ということを、授業の中のさまざまな機会に繰り返して指導していきたい。ここでは、まず書き出しにつながるように、視力低下の原因を、【取材メモ】にある「保健の先生の話」を基に書いた上で、【資料】を参考にして、その対策について書く。その際に、記事の文章に合うように敬体で書くことにも注意する。

# 5年算数

## 「知識・技能」の定着に課題が残る

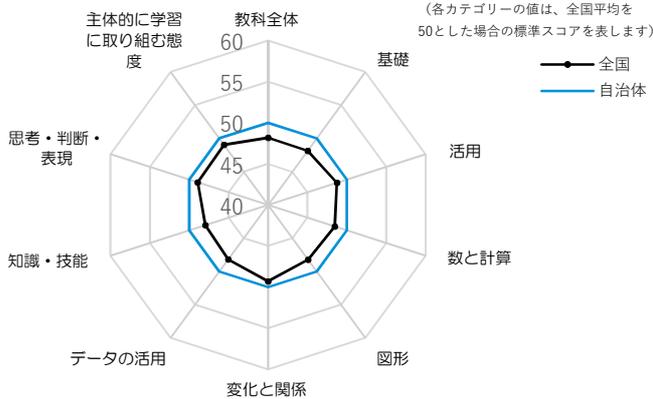
### 正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		60.0	56.1	
基礎		66.1	62.3	
活用		44.4	40.2	
領域別	数と計算	65.3	61.0	
	図形	52.1	49.4	
	変化と関係	61.3	59.1	
	データの活用	45.0	37.9	
	知識・技能	65.3	61.1	
観点別	思考・判断・表現	51.3	47.6	
	主体的に学習に取り組む態度	50.0	46.6	

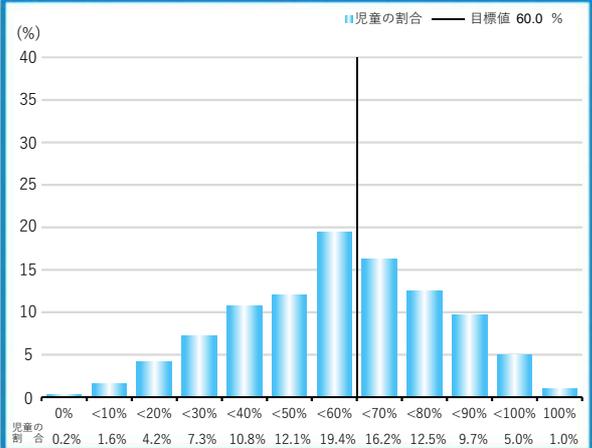
### 分析コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が56.1%
- で、目標値を3.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「知識・
- 技能」が61.1%で、目標値を4.2ポイント
- 下回った。

### カテゴリ間の比較



### 正答率度数分布



## ★課題となる小問★

単位量あたりの大きさ、比例

大問15(2)

<ねらい> ななみさんの式が何を求めているのかを理解し、どちらの田のほうがよくとれたといえるのかを説明している。

目標値 30.0 % 正答率 13.0 % 差▲17.0 ポイント

**指導のポイント** 本問のように、作物等の収穫量を比較するには、1㎡当たりの収穫量で比べる方法、又は収穫量1kg当たりの田の広さで比べる方法が考えられる。1㎡当たりの収穫量が多いほうがよく獲れること、1kg当たりの田の広さは、面積が小さいほうがよく獲れることになる点を確認しておきたい。数量の関係を数直線などに表す技能を身に付けさせ、その数直線などを利用して、自分のつくった式は何を求めているのかが分かるようにさせることが大切である。

小数のかけ算・わり算

大問9(1)

<ねらい> 小数の除法(小数÷純小数)の文章問題を図に表している。

目標値 50.0 % 正答率 37.4 % 差▲12.6 ポイント

**指導のポイント** 問題場面における数値の間の関係を正しく捉え、演算を決定するためには、数直線を活用することが有効である。数が小数や分数になると、演算の決定が難しくなるので、丁寧に指導したい。本問の数直線は2つの数量の比例関係を前提にしているので、一方の量が○倍になれば、もう一方の量も○倍になるという仕組みを、十分に理解させることが大切である。

# 6年 国語

## 「主体的に学習に取り組む態度」(数段階の思考を経て解く問題、作業・記述量が多い問題)に課題が残る

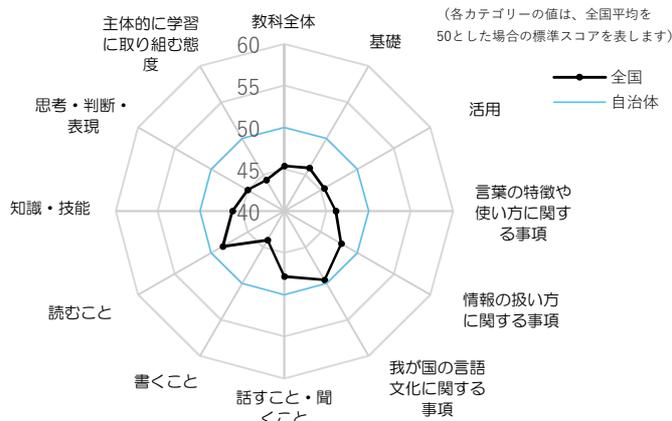
### 正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		69.6	66.9	★
基礎		74.1	71.6	★
活用		61.1	57.9	★
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	74.5	73.0	★
	情報の扱いに関する事項	35.0	22.3	★
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	80.6	★
	話すこと・聞くこと	78.3	80.9	★
	書くこと	63.3	52.9	★
観点別	読むこと	60.8	58.3	★
	知識・技能	69.3	66.3	★
	思考・判断・表現	65.3	60.7	★
	主体的に学習に取り組む態度	63.0	53.2	★

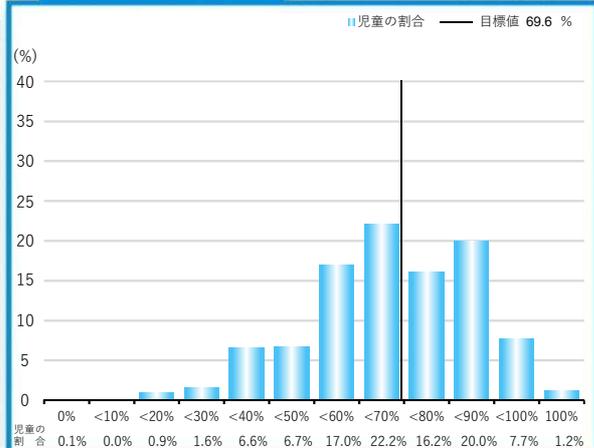
### 分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が66.9%
- で、目標値を2.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が53.2%で、目標
- 値を9.8ポイント下回った。

### カテゴリー間の比較



### 正答率度数分布



## ★課題となる小問★

### 言葉の学習

大問3(3)

<ねらい> 敬語について理解し、正しく使っている。

目標値 70.0 % 正答率 51.2 % 差 ▲18.8 ポイント

**指導のポイント** 普段の生活では、使い方が曖昧なまま敬語を使用している児童も多い。尊敬語、謙譲語、丁寧語については、相手や場面に応じて適切に使うことに慣れるよう、日常の言語生活に生きる指導をする必要がある。また、日頃から敬語を適切に使った言葉遣いを心がけるよう指導し、コミュニケーションを円滑に行えるようにさせたい。

### 説明文の内容を読み取る

大問5(3)

<ねらい> 情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。

目標値 30.0 % 正答率 14.1 % 差 ▲15.9 ポイント

**指導のポイント** 設問の枠内の「まとめ」は、「クジラのしぼりもつ二つの働き」を整理したものである。この「二つの働き」に着目しながら、文章の内容を読み返してみると、それぞれの空欄に入る言葉が分かる。説明的な文章では、このような要点の整理による視覚化ということが、内容を理解する上で重要になってくる。視覚化により文章の内容の構造化を行うことは、内容の理解だけでなく、他の知識や経験と結び付けていくことができる点で有効である。思考ツールとしても、授業の中で是非取り入れていきたい。

# 6年算数

「主体的に学習に取り組む態度」(数段階の思考を経て解く問題、作業・記述量が多い問題)に課題が残る

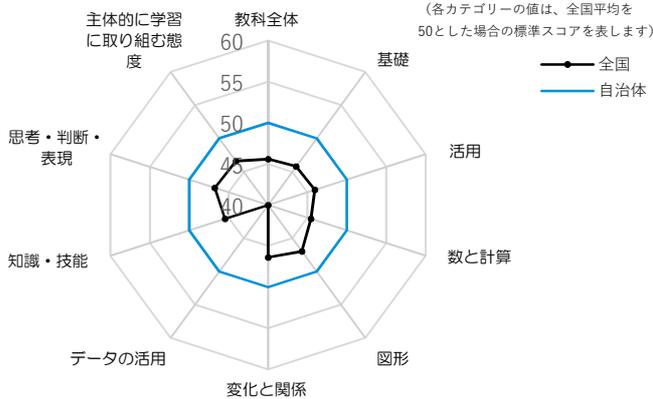
## 正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		68.8	62.9	★
基礎		72.8	67.5	★
活用		58.3	51.1	★
領域別	数と計算	71.4	65.1	★
	図形	71.0	67.7	★
	変化と関係	51.3	40.4	★
	データの活用			
観点別	知識・技能	72.4	66.2	★
	思考・判断・表現	55.7	51.0	★
	主体的に学習に取り組む態度	60.0	53.1	★

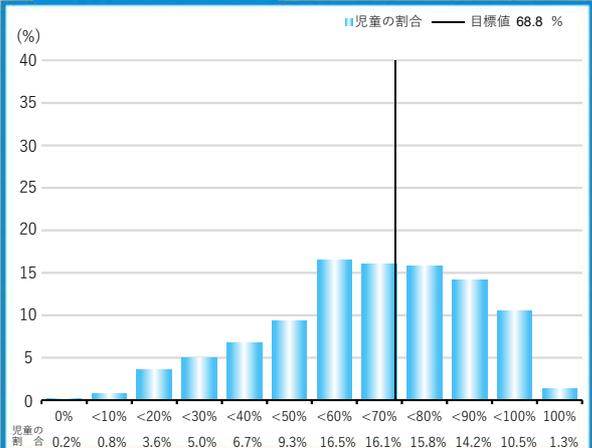
## 分析コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が62.9%
- で、目標値を5.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が53.1%で、目標
- 値を6.9ポイント下回った。

## カテゴリ間の比較



## 正答率度数分布



## ★課題となる小問★

### 分数のかけ算・わり算

大問6(1)

<ねらい> 分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる。

目標値 60.0 % 正答率 35.2 % 差▲24.8 ポイント

**指導のポイント** 本問の数直線は、2つの数量が比例していることが前提となっている。まず、2本の線があることから2つの単位が必要になり、「dl」と「ml」を用いることを確認させる。次に、対応している数量の関係を見つけさせる。ここでは、1 dlと4/5 ml、7/5 dlと□ mlが対応している。数直線上に表す場合は、1 dlと7/5 dlの大小関係にも着目して表す必要があることを指摘したい。数直線に表したならば、比例の関係を用いて立式すればよい。

### 分数のかけ算・わり算

大問4

<ねらい> 除法の性質を用いて、分数の除法をしている。

目標値 65.0 % 正答率 49.6 % 差▲15.4 ポイント

**指導のポイント** 除法の性質については、第4学年で学習し、第5学年の小数の除法の計算の仕方や、第6学年の分数の除法の計算の仕方を考えるときにも用いる。授業でも、除法の性質を用いて計算の仕方を説明することになるので、早い段階でしっかりと理解させたい。乗法の性質と区別が付くようにさせた上で、適切にこの性質を活用することができるよう指導することが大切である。